放射線科

城石 大　放射線科部長

■　**城石大　放射線科部長**

日本医学放射線学会

診療科の紹介

当院放射線科は,画像診断を通して診療の質向上に寄与することを目的とし,地域医療に根ざした診療を行っている.

院内患者の検査はもちろん,地域のクリニックからの依頼に基づく検査および読影業務を積極的に受け入れ,迅速かつ的確な診断情報の提供に努めている.

検査においては,診療放射線技師・看護師と密接に連携し,検査プロトコールの最適化,造影剤によるアレルギー対応,被爆低減に配慮した運用を行うことで,患者にとって安心・安全な検査を提供できるよう徹底している.

画像診断装置としては,CTはSiemens社製　SOMATOM Definition AS+,MRIはGE社製 Signa Explorer 1.5Tを運用している.

活動状況

読影業務は常勤医1名,非常勤医4名（健診およびマンモグラフィーの読影医2名を含む),遠隔読影医1名で行っている.

院内および地域医療機関からの依頼に対し,CTおよびMRIを中心とした画像診断業務を行っており,地域クリニックとの連携においては,検査のみならず読影結果の迅速なフィードバックを通じて,地域医療の質向上に貢献している.

院内においては2025年度9月より,夜間CTの読影体勢を開始し,時間外診療における診断支援体制の強化を図った.現段階では1-2週間程度での読影ができており,救急対応および入院患者の診療における画像の見落とし防止に寄与している.

また,読影において臨床的に注意が必要と判断された症例については,緊急度に応じて電子カルテ端末または電話連絡により主治医への注意喚起を行い,医療安全の確保に努めている.

診療実績

2025年他の検査および読影実績は以下の通りである.

CT検査件数　:9,560件　（読影は5,420件）

MRI検査件数：3,371件（読影は1,459件）

*病診連携 ： 756件 (CT:214件,MRI:542件,全例読影）は上記に含まれる

展 望

今後も地域医療機関との連携をさらに強化し,紹介検査枠の拡大および読影体制の充実化を図っていく.

院内においては夜間・時間外の読影のみならず,日中検査の読影体制を拡充し,迅速な読影体制を構築すべく,遠隔を含む読影医の確保,大学病院を含む病院間の連携などを図っていく予定である.

また,読影の質向上及び業務効率化の観点から,AI支援技術の導入やワークフローの最適化についても検討を進めていく.

加えて,緊急症例における読影レポートが活用できるよう運用を見直し,迅速な診療に寄与できるよう読影体制を強化し,より信頼性・実用性の高い画像診断の提供を継続していく.

学術業績

なし